

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト
文部科学省平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実（産学連携）プロジェクト」

「突然ですが、名刺いただけますか？」

特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ）



略歴

法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)修了後、法政大学大学院政策創
造研究科博士後期課程に進学。

2011年3月、同博士課程中退。

e-mail:

shohji.shirai.36@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F

最近、企業の社員研修や内定者研修において、街行く人々に名刺交換をお願いする、発注をミスしたという理由で食品や農産物の買い取りを依頼(販売)する、といったものが行なわれているのはご存知でしょうか。企業側は、受講生に対して、度胸試しとか人脈作りという名目のもと実施させているようです。私も、ここ最近何度かそういったお願いをされたことがあります。初めの頃は、馬鹿な研修に付き合わされている内定者たちが可哀想に思えて、それぐらいなら協力してあげようと思ったこともありましたが、しかしながら、人の善意を悪用しているだけのようにも見え、自分勝手な研修プログラムに憤りさえ感じます。

3月17日付の毎日新聞には、全国の主要企業100社を対象にした14年春入社の新卒採用調査の結果が記載されていました。そこには、企業の新卒採用が依然として慎重姿勢にあると指摘した上で、選考の際に重視するポイントとして「行動力(69p)」や「コミュニケーション能力(60p)」、「会社(仕事)への熱意(35p)」といった項目が上位に挙げられています。先に紹介した研修は、若者のそうした能力や意識を高める、あるいは試す場なのでしょう。最終的には、どのくらい名刺が集まったのか、どのくらい販売できたのか、チームごとに実績と課題を報告するそうです。

この研修プログラムについて、私が問題だと思うのは、内定者が名刺をもらえなかったことにより、仕事や社会人生活にまで自信を失ってしまう者が少なからずいるということです。会社からの要求(期待)に応えられなかったことが、自身の存在意義を揺るがし、本来助けとなるはずの内定者仲間にさえ劣等感を持つようになり、心理的に孤立した状態を生んでしまうのです。こうした「名刺交換」や「農作物の販売」と、それをやらせている企業の仕事内容とは、私が知る限り、あまり関連性がありません。つまり、どんなに頑張っても仕事理解が深まるわけではなく、むしろ歪んだ自己理解をさせてしまう危険性さえ孕んでいると言えるでしょう。

そろそろ就職活動生のなかには内定を得る者が出てくる頃でしょう。われわれ教職員も、学生が内定したと聞くと、やはり安堵感が漂います。しかし、学生にとって就職(内定)はゴールではなく社会人生活の始まりを意味します。学生の職業社会への移行が少しでもスムーズに進むよう、我々も彼らのその大きな転機をもう少しじっくりと見届ける必要があるように思います。



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

日本人もグローバル化してきた？

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

先日、ある友人が「最近の日本人はグローバル化してきましたね」と皮肉たっぷりに話していました。自分の仕事に関連する業務について「どうして率先してしないんだ？」と上司に言われると、「指示されてませんから」と平然と答える；隣の席の電話が鳴っていても取らない「勝手に出るとその人に悪いですから」というのが理由；服装や態度が悪いことを指摘すると「ボク、アルバイトですから」と悪びれずに応対する—これらすべて、海外に行ったときに経験してきたことでした。それが、最近の日本でも経験できるようになりました。それを私の友人は「グローバル化してきた」と表現したのです。

このような「グローバル化」は日本の価値を下げるだけで何の得もありません。日本の競争力は、おもてなしの心に代表されるきめ細かな心配りにあると思います。日本の強みは何かを理解せずに外国語能力などの表面的なところばかりを強調すると、誤った方向に行きかねません。日本の本当の良さを明確にし、若者に伝えることが急務だと思います。

「相手目線」を意識させる

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

この半年、学生相談に応じているキャリアカウンセラーに対するスーパービジョンを重ねてきました。ケース見直しの大半が「依存型・指示待ち姿勢の学生」への対応相談というのが実情です。それに対して「あなたが人事担当者だったら、そういう学生を採りますか？」と、相手目線を求める方法をアドバイスしてきました。

新学期が始まります。「今時の学生は…」と批判したり諦めたりせずに、学生に対して「君が相手側だったら、どう感じる？」と相手目線を意識させる問いかけをぜひ大切にやっていきたいと改めて認識する機会でした。立場を問わず、周りの大人がしっかり教えていくことが肝要です。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

100の質問に10の回答でこたえる力

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

この時期は、就活生からの相談も必死になってきます。学生のエントリーシートや面接を見ていると、応用力の欠如を痛感させられます。100の質問に100の答えを用意しようとしているのです。

無数にある採用選考の問いに、全て準備することは不可能です。100の質問に10の回答を適用させる力が不可欠です。それが「記憶再生」から「会話」をするということであり、正解ではなく回答を答えるということでもあります。それこそ、大学で身につけるべき基礎と基礎をつなぎ合わせる応用力なのですが、授業での構成はそれを養成するようになっているのか？ 新学期を目前に、改めて今期の進め方を見直しています。



略歴：日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

◆ 催事販売型インターンシップ終了

1月から始まりました「催事販売型インターンシップ」が終了しました。3ヶ月という短いプログラム期間でしたが、集まった学生たちが4つの事業部に分かれてそれぞれ市場調査を行い、企画を立て、何を売るかを自分たちで決めて商品を仕入れ、2つの商店街にて販売を行いました。

途中、試行錯誤・紆余曲折の道を辿り、我々事務局でも商品がちゃんと売れているのか心配で陣中見舞いに参りましたが、なかなか売れ行きも上々で無事に販売期間を終えました。先日行われました活動報告会では、連携大学の関係者の方々が見守る中、各事業部の個性あふれる発表が行われ、チーム一丸となって取り組んだ活動内容を報告してくれました。商店街からは会長をお招きし、総評とアドバイスをいただきました。学生たちには、たくさんの方々にお世話になったことを忘れずに、学んだことを活かしてこれからも活躍して欲しいと思います。

- ◆ 編集後記：3月は卒業式のシーズンです。法政大学でも24日に学位授与式(卒業式)が行われました。今年は桜の開花が早く、満開の桜の中での卒業式となりました。ただ、武道館周りは学生と花見客ですごいことになっていました！さて先日小学校の卒業式に出てきました。最近卒業生代表が答辞を読むのではなく、旅立ちの言葉を生徒全員で言うのが流行のようです。それはそれで感動的なのですが、最近の小学校の「変な」平等主義の一面なのかなとふと思ってしまいました。

◀ 事務局：平山 ▶

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト(事務局：学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/